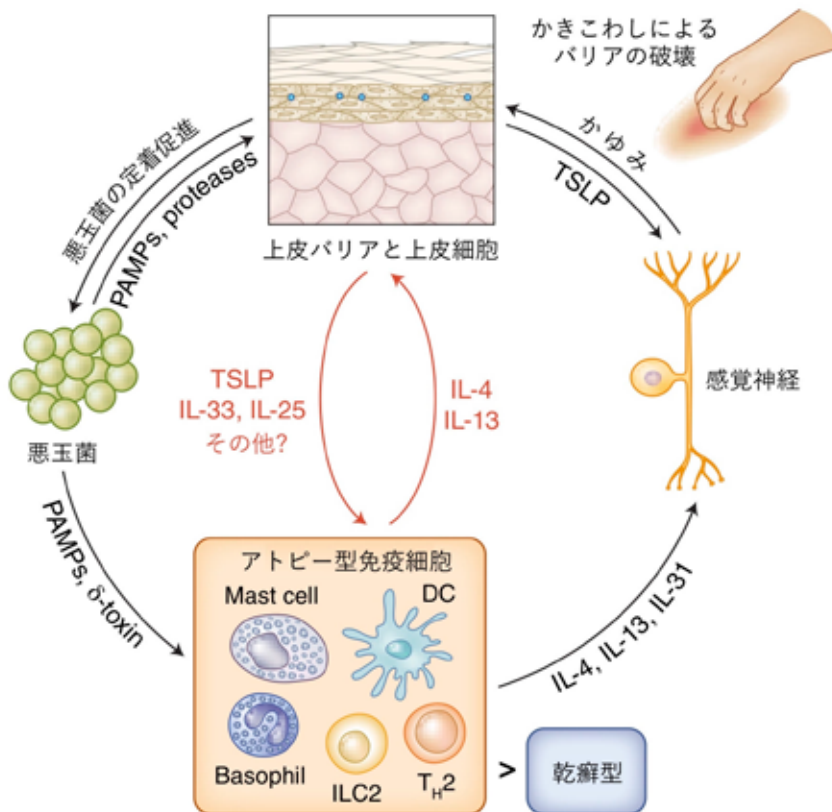


アトピー性皮膚炎の上皮-免疫微小環境 (EIME) と炎症のループ



アトピー性皮膚炎になりやすいかどうかは、アレルギー体質だけではなく、体表面からわずか 0.2-0.3 mm のミクロの環境が決め手となっています。

この環境をかたちづくる、体表面の微生物や表皮細胞、神経の役割について、新たに分かってきたことをお話しします。

Lecture series

- 研究の最先端 -

no.154

さまざまな分野の研究をリードする京大の研究者たち。研究のおもしろさや可能性を総合博物館のスタッフが対談を通して聞き出します。一緒に、研究の世界へ。中高生も大歓迎です。



聞き手: 博物館研究員 六車美保

新しい治療の標的は皮膚の表面にある -上皮-免疫微小環境(EIME)-

2019.09.14 sat.

11:00~12:00

大日 輝記

医学研究科皮膚科学
准教授



皮膚は、表面でからだを病原体や有害物質から守っています。このしくみの異常が、アトピー性皮膚炎などの慢性の皮膚炎だといえます。皮膚がからだを守るしくみとその異常、そして新しい治療の可能性について、最新の情報を紹介します。

場 所: ミューズ・ラボ
(博物館1階 自然史展示室内)

申し込み: 不要です。直接博物館へお越しください。

参加費: 無料です。

問い合わせ: 〒606-8501 京都市左京区吉田本町

TEL (075)753-3272 FAX (075)753-3277

E-mail: info@inet.museum.kyoto-u.ac.jp

URL: http://www.museum.kyoto-u.ac.jp

後 援: 京都府教育委員会、京都市教育委員会

※開催時間が今年は昨年と違って午前11時開始ですのでご注意ください。



乾癬を発症したマウスの耳



TRAF6が皮膚の表面の細胞にないマウスの耳

